

**千曲市総合運動公園基本構想策定協議
公園づくり部会・まちづくり部会合同部会 会議録**

1. 会議概要

(1) 開催日時：令和4年7月13日（水） 14：00～16：30

(2) 開催場所：白鳥園

(3) 出席者

委員：公園づくり部会

北村委員、瀬在委員、諸井委員、宮尾委員、笠井委員、竹内委員、中村委員

まちづくり部会

新井委員、早志委員、小沼委員、栗原委員、湯本委員、洞田委員、吉池委員
佐々木会長

まちづくりアドバイザー 松林氏

オブザーバー：千曲川河川事務所 長澤氏

UDC信州 調氏、竹内氏

事務局：都市計画課 山本係長、轟係長、池田主任

生活安全課 中山係長、丑澤主事

株式会社KRC 小林、渡利、藤岡、東海林

(4) 次第

1 開会・あいさつ

2 部会長の選出

3 これまでの経過と本日の進め方

4 ワークショップ

① ワーク1

テーマ：各エリアの具体的な整備のイメージを考えてみよう！

② ワーク2

テーマ：まち（エリア間・周囲）とのつながりを考えてみよう！

③ 講評

5 その他今後の予定

6 閉会・あいさつ

(5) 提示資料

- ・公園づくり部会・まちづくり部会合同部会次第
- ・参加者名簿
- ・資料1 これまでの経過と本日の進め方
- ・補足資料 参考資料集

2. 協議事項

(1) 部会長の選出

公園づくり部会部会長として北村委員、まちづくり部会部会長として小沼委員が選出された。

(2) ワークショップ

<討議テーマ>

ワーク1：各エリアの具体的な整備のイメージを考えてみよう！

これまでの部会、アンケート等で白鳥園エリアに導入したい施設として挙がっているものを図面上に配置した例を示し、各タイプのよい点や課題を検討した。

ワーク2：まち（エリア間・周囲）とのつながりを考えてみよう！

都市計画道路が整備された場合と、それに加えて、歩行者・自転車環状ネットワークが形成された場合を仮定して、各エリアや周囲とのつながりについて、それぞれのよい点や課題、それに対する改善方法を検討した。

以下の2つテーマについて、3班に分かれて議論を行った

→出された意見は**別紙**参照。

事務局より各班の意見を発表。最後に松林アドバイザー、佐々木会長より全体の講評をいただいた。

■班ごとの出された意見の発表

○ワーク1

<A班>

- ・全体として課題が多く挙がった印象。
- ・前提として芝生エリアをどのように利用していくかによる。
- ・タイプIについて白鳥園エリアにテニスコートはいらないのではないか。
- ・駐車場やワクチン接種会場など現状の利用のように、フリーなオープンスペースとしての価値もあるのではないかという意見が多かった。
- ・ドッグランは河川敷エリアにもっていくこともできる。
- ・白鳥園を駐車場にし、河川敷エリアにスポーツなど施設（機能）を配置する案も出た。
- ・白鳥園自体も現状使われていないスペースがあるのであれば、そこを子どもの屋内遊び場としてはどうか。

- ・堤防道路の横断が大きな課題ではないか。
- ・施設を運営するうえでどのように管理していくのか。

<B班>

- ・タイプⅠについて、テニスコートは必要・不必要、両方の意見が出た。
- ・タイプⅡについて、中途半端に感じるという意見が多かった。1ヘクタールの敷地に対して明確な用途を設けたほうがよい。
- ・タイプⅢについて、ニュースポーツのニーズ、必要性について10年後はどうかなど、中長期的に検討する必要がある。一方、今時でいいのではないかという意見もあった。
- ・タイプⅣについて、利用の自由度やエリアの統一感があり、4つのなかでは比較的好印象。

<C班>

- ・タイプⅠについて、テニスコートの利用実態を明らかにすべきという意見があった。既設コートの代替施設としては必要である。クレーコートは市内にここにしかないため必要である。
- ・タイプⅡについて、利用者の年齢層が偏ってしまうのではないか。
- ・タイプⅢについて、ドッグランやスケートボードができる場所があるのはよいが、利用者のマナーをしっかりとる必要がある。
- ・タイプⅣについて、利用者の年齢層が偏ってしまうのではないか。芝生広場（子供の遊び場）との差別化をすべきではないか。また、子どもの遊び場など県内に同様の施設がすでにあるなかでつくるのであれば個性的なものにしなければならない。

○ワーク2

<A班>

- ・都市計画道路をただ整備するだけでなく、歩かせるしくみやどうやってつなぐかなどプラスの要素を入れてほしい。
- ・都市計画道路が整備されれば、堤防道路を一方通行にして交通量を減らすことができるのではないか。
- ・エリア同士を無理につなげる必要はないのではないか。地元住民からすると戸倉体育館エリアと白鳥園エリアをつなごうとするとまちなかの交通が増えてしまうので、千曲線のような道路を早く整備して、まちなかでもっとおもしろいことができるようにしてほしい。番号①～③が貼ってあるあたりが昔からイベントをやっている地域でありそこも活用していければ。
- ・戸倉体育館と白鳥園はまちなかを含めて様々なつなぎ方がある。
- ・移動手段として自動車からレンタサイクル、自転車利用に切り替えていくべきではないか。
- ・都市計画道路から白鳥園へのアクセス道路を整備しないといけない。歩行者優先にした場合、白鳥園に行く道がない。堤防の方に駐車場をつくった場合はそこまでの路を整備する必要がある。
- ・改善策として、堤防道路を一方通行にする、まちなかに多目的スペースをつくり、トラック市、キッチンカー、オープンカフェをやる、河川敷の利用としてマウンテンバイクやつけばなど利用により、歩かせるしくみづくりなどが挙げた。

<B班>

- ・ケース1については、3エリアの連続性がかけ、独立した公園となってしまう。道路ができた

けだと生活動線になってしまう。温泉エリアと複合した動線が必要ではないか。千曲線の早期整備が必要。

- ・ケース2については、ウォーキングやサイクリングの安全性や戸倉体育館エリアと戸倉上山田温泉がつながり、合宿利用などにおいてよい。川を挟んで温泉エリアとの一体感が生まれる。一方で、現実的にどうすればできるのかというところが課題である。
- ・更埴市民プールは駐車場が河川敷にあるが、堤防道路を横断している現実があるため、時間帯によって安全性が確保されるということを検証すればよいのではないかな。
- ・改善策としてハード面では、堤防に穴をあけるなどして連続性を確保する。ソフト面では、白鳥園を公共交通のハブとして整備し、公共交通で移動できるようにする。歩くにはスケールが広いため、スローな移動手段を用いるという意見もあった。

<C班>

- ・ケース1では、都市計画道路ができて、エリア間のつながりはない。
- ・ケース2では、つながることができてよい、白鳥園エリア、戸倉体育館エリアが立ち寄れる地点になってよい。自転車歩行者が気軽に動けるのは観顧客を含めてよい。千曲ランなども活用できいく。一方で対岸に駐車場があるため、ケース2の場合、どこかに大きな駐車場がないといけないのではないかな、駐車場が使いなくなってしまうなどの問題がある。



■ <松林アドバイザー>

ワーク2で話し合われた「つながり」について、道路整備を先行して考える形式であったが、いちばん大事なことは、戸倉体育館や白鳥園があり、そこに周りがどういったつながりを持っていくかということである。例えば温泉街にとって、イベントを行うことや地域に来た観光客がこちらによってくれるような場所になるとよい。B班で話し合われていたように、イベント開催時に駐車場をどのように確保するかなど、そういったソフト面でのつながりというものを考えていき、その手段として歩行者ネットワークや都市計画道路整備につながっていくのではないかと感じた。白鳥園や戸倉体育館をもっと有機的に使っていくことで、周りがよくなっていくようなものを皆さん自身で考えていただきたい。ますますよくなることを期待している。

<佐々木会長>

ワークを通じて課題は多岐にわたると感じた。ワーク1では、どの班でも出ていたがスポーツ施設はどの程度重要なのか、新しいスポーツのニーズはどれだけあるのかなどの課題があった。アンケートの結果をもとにもう一度探り、どの程度の規模のものが必要なかを検討していかなければならない。

やはり重要なことは、ひとつのスペースを多機能的に使っていかなくてはならない。例えば、A班で具体的に挙げられたのが、「大きなイベントの時には駐車場が必要になる」「駐車場は河川敷がいいのではないか」「河川敷に自由にいける場所を作っては?」「では交通量の多い堤防道路をどうやって横断するのか」などいろいろな整理が出てくる。課題を整理し次回の委員会にあたっていきたい。

次にワーク2について、「どうつなげるのか」ということが大切である。極端に逆に考えて、「つながる必要があるのか」ということにもなりかねない。ただ、スポーツ公園を戸倉体育館の周りだけでなく、他にも機能を分散させなくてはならない。スポーツをする人だけでなく市民の利用を考えれば、ウォーキングなどの話も当然出てくる。そうすると緑豊かな回遊路（道路の歩道もふくめて）歩く人たちの安全なども考えていかなくてはならない。そういった課題が満載である。事務局で整理し、次回の協議会につなげていきたい。

